

大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議 議事録

日 時 : 平成16年7月3日(土)13時30分～15時30分

場 所 : 総合会館7階第2研修室

出席者 : 委員 別紙出席表のとおり

事務局 商工課 平林課長、永田副参事、駒田勤労観光係長、待井

<事務局報告事項>

平林課長から報告

- 7月6日(火)に本会議について記者発表及び四日市市ホームページに会議内容を市民に公開し、広く意見を募る(9月17日期限)。
- 川村氏が長谷川委員の代理で出席。

今回の論点についての意見交換

1. 平成17年度以降の大四日市まつりについて

大四日市まつりのメインイベントは何か

事務局 駒田係長資料説明及び欠席委員の意見を紹介

<各委員意見交換>

- おどりフェスタをもっと気軽に楽しく参加できる行事にすれば、参加者ももっと増えるのではないかと思う。地域の盆踊り同様練習を積まなくても参加でき、簡単な衣装で参加できれば良い。中高生の参加をもっと増やすべきである。そうすれば、後につながっていく。また、おどりフェスタを山車と太鼓とおどりが参加できるものにすればと思う。
- 山車をイベントに加えると、歴史性が前面に出すぎてしまい、かえっておどり等がやりにくいのではないか。気軽に参加ということであれば、山車は出ないほうが良い。
- 「Kai-kou～めぐりあい～」で、山車と太鼓、おどりを融合させたが、確かに違和感があった。
- 一口に市民参加というが、見ている側からすると、「山車→観客も行事に引き込まれて参加している」「おどり→観客は踊り手と一線を画し、祭りの雰囲気を楽しんでいる」というように、市民の参加の仕方が違うことが違和感を感じる原因であろう。異種のことを無理に1つにする必要はなく、日程を別にするのも良いのではないかと思う。
- YOSAKOIソーランやど真ん中まつりのようなものを四日市から本気で発信するつもりであるなら、相当の覚悟も必要であるし、気軽に参加するという面では逆行することになることも考慮すべき。
- 今回の論点について、自分なりの意見をまとめた。時期も5月にして今までとまったく違った祭りにし、地区市民センター単位で参加するようなまつりとしてはどうか。
 - ・大四日市まつりを発展的収束させ、地域のまつりは昭和39年以前の氏子を中心にした伝統伝承まつりとする。
 - ・大四日市まつりに代わる21世紀のまつりを、市民参加で創作すべき。その過程で、地域の結束や元気、新しい街づくりにつなげたい。
 - ・内容は、創作した山(手作りの人形など)のパレードもよし、よさこいソーラン風の踊りもよし。各地域で考え、子供や学生、社会人、年金生活者、企業・事業所、学校など希望する組織団体がパフォーマンスを行う。大人数が会場で乱舞する姿には、まつり特有のエロティックな表現(動きや衣装)が加われば、待ち遠しい恋人作りのまつりが進化する。
 - ・使用する音曲は、太鼓、鉦、笛、鈴などによる共通の(四日市音頭を基調とした新曲)を用いて、お囃子、掛け声、手拍子など出演者も観衆も一体となれるようなものに。CDを製作し、全戸に配布する。
 - ・衣装は、たとえば阿波踊り風、ねぶた風。

・コンテストを実施すればよい。

- 延べ40万人の観客のうち、参加者は1000人程度。40万人全ての人が参加する祭りは不可能であり、参加する要素と見てもらうという要素の2つが必要。地域のまつりは地域に任せ、大四日市まつりには地域のまつりの参加を広く呼びかけるとか、数年に1回は鯨船が集結する場面があっても良いのではないかと。
- まつりの原点は、諏訪神社へ奉納するために行われている行事である。これとは別に、市民が参加したり見たりして楽しむ夏まつりもあって然るべき。楽しむまつりに必ずしも山車が参加しなければならないということではなく、新しく作っていけばよい。夏まつりに山車が出る・出ないという議論は5年ほど議論しているが、いまだにまとまらないのは、伝統行事と市民参加行事を切り離して考えてしまうからである。夏まつりに出たいという山車は出てもらい、改善すべき部分は少しずつ改善していったらよいのではないかと。1つのものを作り上げていくには、少しずつ積み重ねが必要であると思う。
- 秋まつりは秋まつりとして開催し、数年に1回地域のまつりが夏まつりにすべて集結して大きなまつりとするのも良いのではないかと。
- 「Kai-kou ~ めぐりあい ~」で伝統行事とおどりが融合したことはあったが、それぞれの観客の対象層が異なることから、この先もずっと一緒にやっていくには無理がある。夏はフェスティバルとして夏の暑さを吹き飛ばすようなものがない。山車は伝統を守るという原点に帰るべきではないかと思う。
- 夏まつりで、伝統行事とフェスティバルを同時に行うなら、場所を変えたほうが良い。山車は夏行うものではないことから、伝統行事は5月頃に行い(秋まつりはそのまま残して)、フェスティバルは夏に行うとするのも良い。

山車の大四日市まつり出演について

< 各委員意見交換 >

- 山車としては、秋まつりへの移行することが良いと思うが、夏まつりの参加をやめると、山車の担い手の問題がある。夏は夏休みや夏季休暇があるために参加できるが、秋まつりだけという参加者が減るだろう。夏まつり、秋まつりのどちらかに全ての山車を移行するのではなく、それぞれのまつりに出られる山車だけ出るというようにしないと難しいのではないかと。
- 山車がどうあるべきかは、山車の都合ではなくまつりを見る市民の立場から見た観点から考えるということが重要ではないかと。
- 山車としては、夏か秋かという意見はあるものの、結論が出ればそれに従うつもりである。
- 総花的と言われている中、郷土文化財行列という行事は(山車が夏まつりに参加するにしても)、大四日市まつりにはないほうが良いのではないかと。
- 山車を行っている立場から言うと、観客がいないとやり甲斐に欠けるという面はあるものの、氏子から氏神に奉納するという意地でやっているのであって、客寄せのためでやっているのではないという思いはある。
- 山車の中でも大入道はとりわけ存在は大きく、大四日市まつりの顔である。これが夏まつりから突然なくなれば、それだけの理由で客足が遠のいていくという恐れはある。しかし、山車が夏と秋両方に出るという今の状況を並行して進めていくと、結局夏は何がメインであるかが混沌とするだけではないかと思う。山車が秋に移っても、夏には人々を期待させるようなイベントの企画を行っていくというような整理の仕方が必要ではないか。
- 秋のまつりは町練りを主として行っており、地域の人々にまつりというのはこういうものだということを知ってもらおうと、古いものを取り入れたりして努力している。
- 夏の祭りは神事ではなく、山車が出ているということだけである。ただ、来場者が大四日市まつりに何を見に行くのかというと、山車を見に行くというのが圧倒的に多いことから、簡単に山車を大四日市まつりから切り離すことが難しいという思いはある。
- 今までのようになんとか山車がまつりに参加しているのではなく、あくまでフェスティバルが中心であり、それに山車が参加するという形にしなければならない。
- 地域の文化財を保存する点で市の援助は必要と考えるが、山車が氏神に奉納する神事そのものに対して、行政から支援をもらう必要はないと考える。

2. 時期は「8月第1日曜日を含む土日曜日」のままでよいか

お盆の帰省時期の方がよい

時期を早める方がよい

事務局 駒田係長資料説明及び欠席委員の意見を紹介

<各委員意見交換>

- 8月第1土日は盆休みのために出勤の企業もあるため、まつりに参加できないだけでなく、仕事にまつりで騒がしいために不満がでることもある。また、四日市から出て行った人が盆休みに帰ってきて、大日市まつりを見ることができないことから、開催日は盆休みとするのが良いのではないかなと思う。
- 夏まつりが8月で秋まつりが10月だと、秋まつりが終わってから次のまつりまでの間隔が長い。5月頃に大日市まつりをした方が良いのではないかな。
- 幼稚園児のおどりを指導している経験から、5月開催となると年少はまだ4月に入園したばかりで、おどりを覚えるには幼すぎる。現在の開催時期である8月であれば、入園後数ヶ月を経過しており、おどりを教えることができる。
- 今の子どもたちは町内で集まったりする機会が少ない中、長い夏休みの時期に誰でも楽しめるまつりがなくなってしまうのは寂しいのではと思う。
- まつりが夏休みでないと子供が練習に参加できない。中学校を卒業すると太鼓から離れていく子どもも多い中、太鼓離れを少しでも減らすためには、夏休みに入ってからすぐまつりに向けて行い、また練習場所についても各地域で行っていく必要がある。盆休みは帰ってくる人もいるが、逆に帰っていく人もいることから、盆休みにこだわる必要はないと思う。子供のまつり離れを防ぐためにも、まつりは夏休みに行くべきと考える。
- 盆休みは盆踊り等が各地域に根付いており、また松原の石取り祭りも時期が重なる。子どもも高校生になると、付き合いの幅が急に広くなり、富田の友達がいたりすると、どうしても石取り祭りに引っ張られていってしまう。やはり、元気のある高校生を大日市まつりに引き込みたい。わざわざ競合する祭りが多い盆休みに大日市まつりを開催することはないのではないかなと思う。
- 現在の大日市まつりの開催時期は8月1日が市制記念日、8月4日が開港記念日であることから、8月上旬に行っているという経緯がある。
- 今現在、市制記念日や開港記念日と大日市まつりの開催時期との関連を知る人も少ないであろうから、フェスティバル形式のまつりであれば、それに皆さんが参加しやすい時期に開催すればよいのではないかなと思う。また、現在の開催日は桑名と鈴鹿のまつりと日程が重なっているという問題もある。
- 幼稚園児はプールの準備体操代わりに練習をしてもらっている中、大日市まつり開催日がお盆以降になってしまうと、夏休みに入ってから期間が長くなるので、おどりを忘れてしまうという問題もある。
- 盆休みでは地元の企業が参加できないことから、8月第2土日が良いのではないかなと思う。

3. まとめ

基本的にはフェスティバル形式という方向性とし、メインイベントについては次回も引き続き検討を行う。

開催時期はやはり夏の前半の時期で、近隣の大きなまつりや地域のまつりと重複しない時期に行うという方向とし、これについても次回引き続き検討を行う。

次回までにどんなメインイベントや企画があれば良いか、各委員は文章にして7月30日までに事務局に送付することとする。

各委員からでた意見を事務局でまとめて返送し(お盆頃)、次回(8月21日)に再度議論することとする。

<次回開催日程等>

- 次回開催日は8月21日(土)13時30分～

次回は本会議後に四日市花火大会の検討も行う(花火委員のみ)。他の地区で行われている花火大会のデータを事前に送付させていただく。

○次々回開催日は9月18日(土)13時30分～